

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日

平成26年9月24日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3492700095		
法人名	医療法人みやうち		
事業所名	小規模多機能ホーム宮内温泉湯治の館ひまわり		
所在地	広島県廿日市市宮内字佐原田4215番地の1 (電話) 0829306072		
自己評価作成日	平成26年7月25日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/34/index.php?action=kouhyou_detail_2013_021_kani=true&JigyosyoCd=3492700095-00&PrefCd=34&VersionCd=021
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	平成26年9月18日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

バイタルチェック等で利用者様の身体状態の把握を行い、体調の変化に注意している。内服薬を正しく服用し、体調を安定させることで利用者様が在宅での生活を健康に送られるように支援している。通いを中心にご利用いただくことで、利用者様に新たな人間関係を築いてもらい、他者との関係を維持してもらえよう努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

2010年4月開設の小規模多機能型居宅介護事業所である。近隣にはショッピングセンターが多く、高速道路のインターチェンジが近くにあるなど、交通も至便でありながら、緑が多く環境が良い立地にあるほか、地下から温泉が湧き、足湯を利用することができる。
また、母体である医療法人のバックアップにより、利用者の急変など緊急時の体制が充実しているほか、重層的な職員配置と効果的な職員研修がなされており、利用者および家族の安心感につながっている。また、利用者および家族から職員の笑顔が良いという評価も多く、職員からの意見を多く聞く体制ができていることで、働きやすい環境づくりができている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	医療法人の理念を月2回の朝礼時に唱和している。小規模多機能ホームの理念を作成し掲げている。毎朝始業時に理念を唱和し、笑顔と思いやりの心で利用者様に接するように意識付けている。	事業所の理念である「笑顔と思いやりのある心を大切にします」を、毎日朝礼時に唱和し職員に徹底している。管理者と職員が理念を共有し実践することで、職員に笑顔があふれるなどサービス向上に結びついている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域の様々なボランティアの方に来ていただく事により社会的交流を図っている。近隣の理髪店にて散髪をしてもらっている。デイケア、デイサービス、等の催しに参加し他の利用者との交流にも努めている	近隣のボランティアグループの訪問が定期的であり、利用者との交流をしてもらっている。また、自治会長からの協力も得られるなど、地域との良好な関係が構築されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げていく認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域の集いにて、小規模多機能のサービスを紹介していく中で認知症の理解を求めた。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2ヶ月に1回の運営推進会議において出た意見を参考に外出の取組みを増やす等している。	運営推進会議は、参加者が参加しやすいように第2火曜日と決められている。運営推進会議で出た意見を参考に、外食を増やすなどサービス向上に結び付け、支援している。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	月1回は、市役所高齢介護課の窓口に伺い、地域包括支援センターの職員等と情報交換を行っている。	月1回は市役所内の地域包括支援センターへ訪問し、情報交換を行い、協力体制を構築している。その結果、同センターからの緊急時の受け入れ要請など、地域ニーズに対応することができている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>玄関は感知センサーにて出入りを確認している。施錠はしていない。転倒の危険のある利用者に対して、適切な福祉用具の利用を勧めたり、見守りを強化し安全確保に努めている。</p>	<p>身体拘束に関する母体法人の行う研修により、職員の教育が行われている。適切な福祉用具の利用や見守りなど、安全を確保したケアにも取り組んでいる。また、言葉による拘束をしないよう、管理者による教育が行われている。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>高齢者虐待防止の研修に職員が参加し、参加した職員がフィードバックしている。全体会で勉強する機会を設けている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>成年後見制度についての勉強会を行い職員の意識向上に努めている。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>利用者や家族に対して説明し同意を得ている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>2ヶ月に1回運営推進会議にてお話を聞く機会を持っている。また、アンケートによる回答を頂き反映させている。</p>	<p>運営推進会議にて利用者および家族からの意見を聞き、母体法人の実施する全体アンケートでも家族の意向を汲み取り、事業所の支援内容の改善に取り組みされている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月1回の全体会議を持ち意見を出してもらっているようにしている。	隣接するグループホームの職員と合同で全体会議を第4金曜日に行っている。食材の購入方法の工夫により作業時間の短縮を図り、その時間を利用者への時間に振り分けるなど、サービス向上に職員の意見が活かされるよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	年2回人事考課があり、面談を行っている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	院内研修では医療安全研修や非常時の対応の研修、認知症についての研修などを受けている。院外研修については、研修内容を掲示し、さまざまな研修を受ける機会の確保をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	小規模多機能交流会を輪番制で開催し意見交換を行っている。他の施設からの見学者などを受け入れ意見交換をしている		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	初回面談時に本人と話をすることで、本人が困っていること、不安なこと、要望等を聞きサービス内容に反映させている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	初回訪問において家族に聞き取りを行いアセスメントをしている。また、利用開始のアセスメント用紙に記入しカンファレンスを行い関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	必要としている支援を見極め対応を行っている。日中の見守り、同年代の方との交流、入浴介助や散髪の希望が多い。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	畑作業や野菜の収穫を通して一緒に楽しみを見出している。昼食時テーブルを拭いて頂いたり、料理の下準備や片付けをお願いしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	本人と家族の絆を大切にし、家族の意見を聞きながら共に本人を支えていく関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	主に他の土地から子供の所に来た人が多く馴染みの関係を築いていく途中である。小規模が馴染みの場となってきている人もいる。	他の土地から子ども宅に引き取られた方も多く、以前利用していたデイケアのイベントと一緒に参加し親しんでもらうなど、それまでのなじみの人や場所との関係が途切れないように努めている。また、近隣の理髪店を利用することで近所との接点ができるなど、ご近所での馴染みの場所づくりに努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。</p>	<p>利用者同士の関係を把握し配席を考えたり、ゲームを行ったり一緒に過ごせるようにしている。利用者同士もお互い気にかかけ声かけ合っている。</p>		
22		<p>○関係を断ち切らない取組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。</p>	<p>入所された人・サービスを必要としなくなった人に対して様子伺いの訪問をしている。</p>		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	<p>アセスメントをすることにより本人の意向を把握するようにしている。また意向の確認ができない人に対しては、本人が苦痛な状況にならないように対応している。</p>	<p>食事時間やおやつの時間等、本人が気楽に話しやすい雰囲気をつくり、思いや意向の把握に努めている。思いや意向を表すことが難しい方には、レクリエーション時の様子等を家族と時間をとって話し合うことにより、本人の意向をくみ取れるように努力がなされている。</p>	
24		<p>○これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。</p>	<p>初回面談時にアセスメントを行い把握に努めている。</p>		
25		<p>○暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。</p>	<p>本人、家族より聞き取りを行い把握に努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	新規の利用者についての対応や現状の把握、モニタリングについて意見を出し合っている。	定期的なカンファレンスを重ね、アセスメントを見直すことで、チームで作る介護計画になっている。本人の心理面の理解を深め、家族の意見も反映しながら、個別ケアに関する周知を促し、より良い介護計画の立案に努めている。	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	サービス利用時の様子を個別記録に記入し、情報の共有、実践に活かしている。		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	長時間の利用が難しい人には昼食までの利用も行っている。急な泊まりや受診介助など、状況に応じた柔軟な支援が出来る。定期的に散髪移動介助を行っている。		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	民生委員や自治会長に運営推進会議に出席して頂き、独居の人の現状を聞いている。		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	かかりつけ医とうまく連携がとれ、適切な支援ができています。	提携医療機関へは受診付き添いなど適切に連携が取れているほか、本人が希望するかかりつけ医とも電話等の手段を通じ、日常生活上の注意点や服薬管理に対する助言等、適切な支援が行われている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	看護職員との連携を密にし、個々との状態に合わせて適宜受診や看護を受けられるよう支援ができています。		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	家族・本人の同意のもとと身体状況等の情報交換等はスムーズに行われている。		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	家族と話し合いが出来ているが、地域の関係者とはできていない。	仕事を持っている家族が多いこともあり、看取りを希望された方はいないが、可能な限り対応する体制はできている。亡くなる直前まで泊まり利用を提供したことがあるなど、母体法人による医療のバックアップ体制が利用者の安心感につながっている。	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。</p>	全体会などでシミュレーションを行ったり、朝礼で急変時の連絡方法を復唱している。		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p>	毎月火災訓練等を時間や状況の設定を変え訓練を行っている。	隣接するグループホームと共同で、夜間・遅出・日勤など、複数の時間帯を想定した火災訓練を実施している。3日分の食糧備蓄があり、自家発電装置も完備、温泉利用により水も確保できる。煙と熱を感知する警報機を設置し、スプリンクラーも完備している。近隣の母体法人の併設施設からの応援もある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	一人ひとりの人格を尊重し声かけ・対応に気を使っている。入浴時など利用者の方の希望（介護者の性別）に気をつけている。	入浴は個別浴槽で対応し、オムツ交換時は戸を閉めるなどプライバシーに配慮した取り組みがなされている。母体法人の研修でおむつ交換時の手技を含めた声かけ、言葉遣いの配慮に関する研修がなされており、一人ひとりの人格やプライバシーを損ねない取り組みがなされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	作業など一人ひとりに合ったものを考えている。また、休息をとりたい方には部屋で臥床して頂いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	無理強いせず、一人ひとりの気持ちを聞き入れながら行い、プログラム内容等を変更することもある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	入浴後の化粧や髭剃り等、鏡の前でゆっくりしてもらったり介助している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	時には、食べたいものを聞いたり、皮むき等の下ごしらえを手伝って頂いたりテーブル拭き・お盆拭きなど出来る範囲で行っている。音楽を流し雰囲気作りにも気をつけている。気候の良いときには、外食等の企画を行い場所を変えて食事を取ってもらっている。	野菜の皮むきや、たこ焼きをひっくり返してもらうなど一緒に調理に参加してもらうよう工夫がなされている。また、展望レストランに外食に出かけるなど、食事を楽しんでもらえるよう工夫がなされている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。	通常の形状では食べにくい方にはミキサー食にしたり，刻んで食べやすくしている。水分においては，温かい方がよいか冷たい方がよいか好みに合わせて出している。食事量の少ない方・水分摂取量の少ない方には，表に摂取量を記入し1日量の把握に努めている。嚥下状態に応じてトロミ剤を使用している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように，毎食後，一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	通いの人には昼食後の歯磨きを行い，泊まりの人には，毎食後歯磨きを行う。また，義歯の汚れのひどい人や泊りの人には義歯洗浄剤の使用を手伝う。基本は，本人がするのを見守り，必要に応じて声かけ介助している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし，一人ひとりの力や排泄のパターン，習慣を活かして，トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄表利用し，排泄パターンを把握することで，トイレ誘導を適宜行い，間に合わない状況を減らすことにより，紙パンツ，パットの使用を減らしている。	お風呂の前や食事の前など，トイレには2時間おきに声かけし，誘導がなされている結果，通いの利用者にはトイレでの失敗が少ない。パット交換の頻度も少なく，排泄の自立に向けた支援が適切に行なわれている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し，飲食物の工夫や運動への働きかけ等，個々に応じた予防に取り組んでいる。	バランスの良い食事作りを心がけている。体操をレクリエーションの中に取り入れ体を動かすよう支援している。体操の後には水分摂取をすすめている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように，職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに，個々に応じた入浴の支援をしている。	一人ひとり個別に入浴しており，その時，入りたくない方には時間を変えて誘ったり，次の日に変える等して気分よく入浴して頂いている。温泉成分の湯にゆっくりつかり温まってもらっている。	個別浴槽を使用し，椅子に座って入ってもらうことで身体的負担を軽減している。着替えを自分で行う意向により，入浴に時間のかかる方も，ご自身のペースでできるよう，また同性介助の実施など，本人が気持ちよく入浴できるような配慮がなされている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	室温調整を行い、気持ちよく眠れるようにしている。ADLに合わせた部屋の振り分けを行いベッドの位置を適切に行い、背上げの機能も使い、本人が楽な状態で利用しやすい様になっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬の説明書の確認をし、薬情報ファイルに常時新しい情報を入れて薬の理解に努め、受診時に医師と連携をとっている。利用者の状態など観察しながら服薬の支援を行っている。お薬手帳も預かり薬の変更などを把握している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	利用者一人ひとりの好みを考えながら屋外での作業が好きな人には、園芸作業や収穫を一緒にしてもらえるように努めている。レクリエーションを提供している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	普段は行けない美術館や外食などの計画をし、外出の支援をした。テラスで日光浴、季節の外出（花見・紅葉狩り）等は継続して行っている。	展望レストランや花見、紅葉狩り、運動公園へのドライブなど、通いの利用者を中心に積極的に外出支援がなされている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	散髪の時髭剃りとカットなど本人が選択して支払いを行っている。買い物の代行を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	本人が希望すれば、電話できる体制を整えている。携帯電話を持っておられる方などは、使用方法が解らない時は説明も行っている。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	クラブ活動、レクリエーションなどで作成した作品を掲示している。毎月のカレンダーも利用者を作成して頂き季節感を感じて頂けるよう工夫している。	地元、廿日市市のホールでの作品展への出展に向けて、日頃から手掛けている作品を共有空間にならべ、居心地のよい空間を演出している。また、アイランドキッチンを導入し、利用者に自然な形で調理に参加してもらえるよう、適度な生活感やふれ合いを大切に空間作りが工夫されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	座席配置に注意しその人らしい空間作りに注意している。一人でいたいときには別の部屋で過ごせるように配慮している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	利用者に合った部屋、いつもと同じ部屋などを使用している。	泊まりの部屋は、ラジオ、サイドテーブル、時計など、本人が使い込んだものや、ぬいぐるみなど馴染みのものを持ち込んでもらうようにし、居心地よく過ごせるような配慮がなされている。	
55		○一人ひとりの方を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	トイレの扉に『空き』『使用中』と札をかけてわかりやすくしている。家事も出来る方には手伝って頂いている。		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 小規模多機能ホーム宮内温泉湯治の館ひまわり

作成日 平成26年10月31日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	12	重度化や終末期に向けて利用者や家族との意向の確認を十分に行うことが大切だが十分であるとはいえない	コミュニケーションを密にとりながら何でも話せるようになる	利用者家族が話し易くなるように、静かな場所へ案内し、しっかり話を聞く	1ヵ年以内
2	18	行事としての外出だけでなく日常的な外出を今後も増やしていきたい	外出することで季節を感じ五感を鍛え健康を維持する	週間予定や日程を考慮しながら利用者に無理のない範囲で外出を企画していく	1ヵ年以内
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。